

テモテ

第二

4

「時がよくても 悪くても」

テモテへの手紙第二 4章 最後の命令・勧告

アウトライン

0. イントロダクション

- I. 最後の命令 1～8節
- II. 願いと祈り 9～18節
- III. 最後の挨拶 19～22節
- IV. まとめと適用

主の命令に従って

ただ主を信頼して歩もう

テモテへの手紙第二とは？

■ 著者 …使徒パウロ

■ 宛先 …エペソ教会を指導中のテモテ

■ 執筆時期・場所 …不明

使徒の働きの文脈に位置づけるなら…

→パウロが、ローマに移送された後？！

■ 目的 …牧会書簡(テモテ、テトス)
牧会上の実践的な助言。励まし。
パウロの別離の手紙。



パウロの最後の手紙



I. 最後の命令

テモテ第二 4章1～8節

ローマのコロッセオ

命令 主の裁きの前で テモテ II 4:1

神の御前で、また、生きている人と死んだ人を
さばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れ
とその御国を思いながら、私は厳かに命じます。

■ メシアは、すべての者を裁かれる

① 信仰者 …キリストの御座の裁き

→ 報酬が決まる裁き

② 不信仰者 …白い御座の裁き

→ 永遠の滅びに至る裁き

パウロが見つめているのは、世の終わりに来られるメシア



命令 みことば テモテ 11 4:2

みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても
しっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず
教えながら、責め*、戒め*、また勧め*なさい。

*エレゴー…誤りを指摘する。正す。明るみに出す。

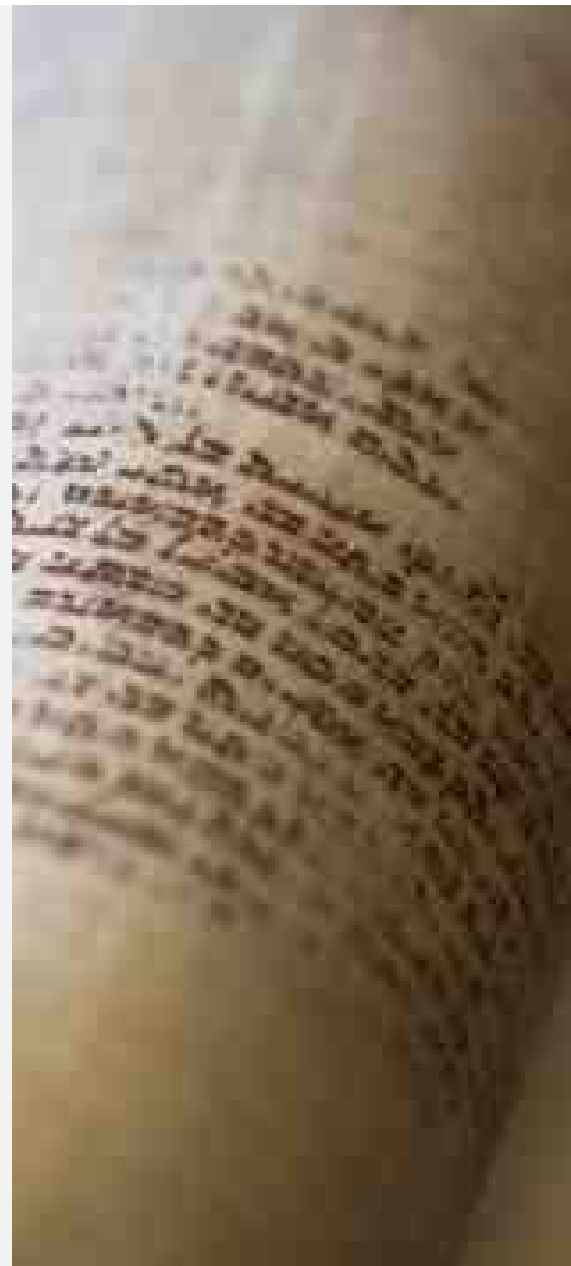
*エピティマオ…叱る。厳しく命じる。

*パラカレオ…励ます。願う。乞う。慰める。

■この節の命令はすべて、断定的な強い命令。

→必ず、直ちに。

例外なく、他の選択の余地もない。



警告 欲望が支配する時代 テモテ II 4:3~4

というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好み*にしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。

*エピトゥミア…欲望。貪欲。

■茨で覆われた信者(マルコ4:19)…「この世の思い煩いや、富の惑わし、そのほかいろいろな欲望*が入り込んでみことばをふさぐ」

信者の多くも欲望に囚われていくのが世の終わりの時代



命令 福音宣教者の使命 テモテ II 4:5

けれども、あなたはどんな場合にも慎んで*、
苦難に耐え、伝道者*の働きをなし、自分の
務めを十分に果たしなさい。

*エウアンゲリストゥ…“福音宣教者”

*継続の命令…“慎み続けていなさい”

*強い命令…決定的に、強い意思をもって

■意訳…「どんな場合にも慎み深い姿勢で居
続けなさい。(神への絶対的な信頼を持って)
苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務
めを十分に果たしなさい」



宣言 走り終えて テモテ II 4:6~7

私はすでに注ぎのささげ物*となっています。
私が世を去る時が来ました。

私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のり*を走り終え、信仰を守り通しました。

*犠牲と共に献げたぶどう酒(出29:40)

➡殉教を覚悟しているパウロ

「けれども、私が自分の走るべき道のり*を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音を証しする任務を全うできるなら、自分のいのちは少しも惜しいとは思いません。

使 20:24」



宣言 義の栄冠 テモテ4:8

あとは、**義の栄冠***が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを**慕い求めている***人には、だれにでも授けてくださるのです。

*ステパノス

…信仰生涯を全うした者への**勝利の栄冠**

→「キリストの御座の裁き」で適格者へ

*“愛し続けてきた”

…アガパオ(愛する)の現在完了形





Ⅱ. 願いと祈り

テモテ第二 4章9～18節

朝靄のローマ

命令 孤独の中で テモテ4:9~10

あなたは、何とかして早く私のところに来て
ください*。

デマスは今の世を愛し、私を見捨ててテサロ
ニケに行ってしまった。また、クレスケ
ンスはガラテヤに、テトスはダルマティアに
行きました。

*急ぐ、熱心に務める。(強い命令形)

→“何としても一刻も早く来るように!!”

■デマスは、脱落。

クレスケンス、テトスは、派遣。



嘆願 同労者たち テモテ II 4:11~12

ルカ*だけが私とともにいます。マルコ*を伴って、一緒に来てください。彼は**私の務めのために役に立つ**からです。

私はティキコ*をエペソに遣わしました。

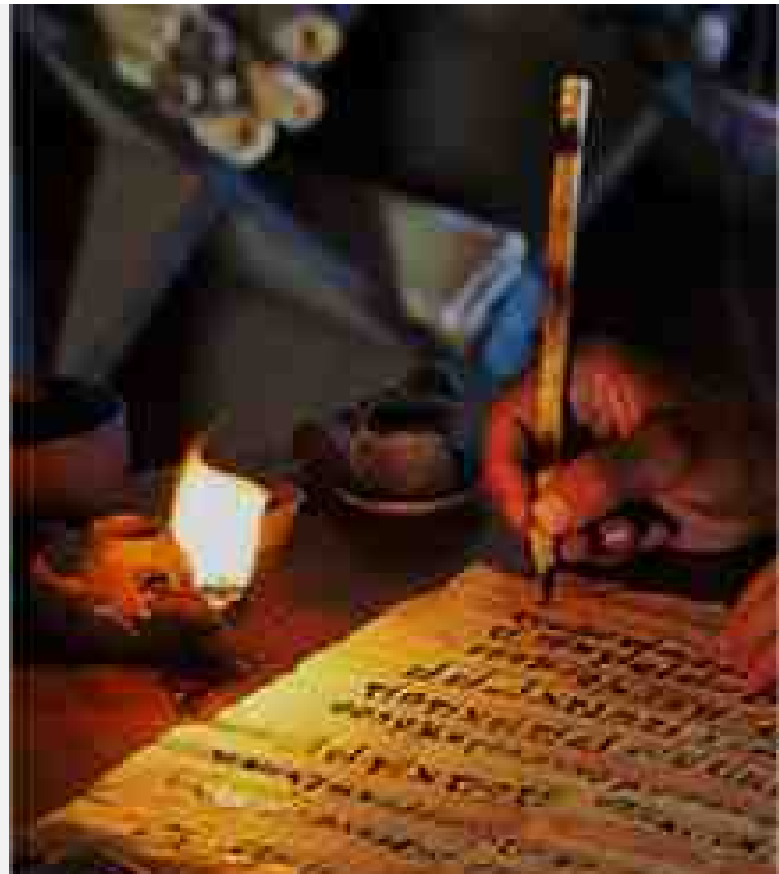
*ルカ福音書、使徒行伝の著者。医師。

*マルコ福音書の著者。

第一次伝道旅行で同伴も、途中で脱落。

*エペソ、コロサイの手紙を届ける。

第三次伝道旅行の後半で同伴。



**最後の働きのため
信頼できる目撃証人・
靈感を受けた弟子が必要**

嘆願 羊皮紙の物 テモテ II 4:13

あなたが来るとき、トロアスでカルポのところに置いてきた外套*を持って来てください。また書物、特に羊皮紙の物*を持って来てください。

*この時代の外套は貴重品。

…野宿の時には毛布代わりに。

*旧約聖書の羊皮紙の巻物

…律法か、預言書か、詩篇か。指定せず。



警告 敵対者 テモテ II 4:14~15

銅細工人のアレクサンドロ*が私をひどく苦しめました*。その行いに応じて、主が彼に報いられます。

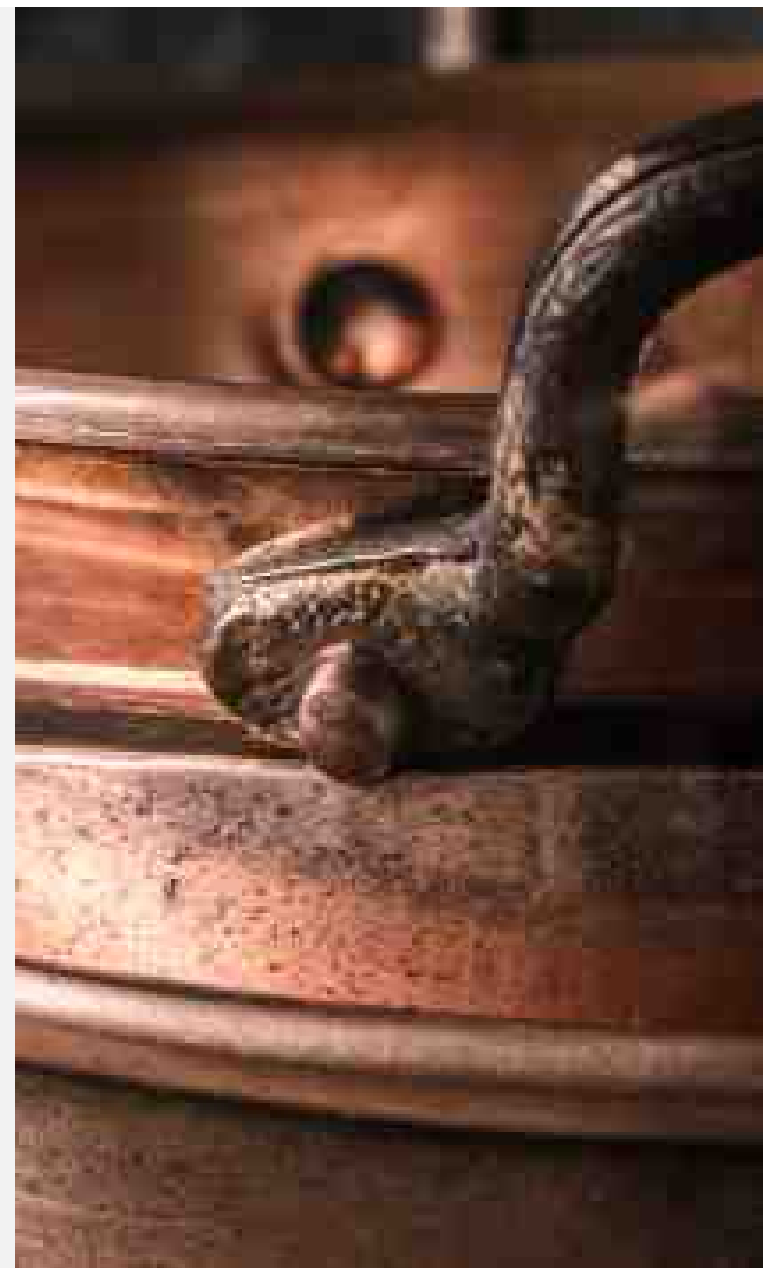
あなたも彼を警戒しなさい。彼は私たちのことばに激しく逆らったからです。

*アルテミス神殿の職人の頭？

…デマで民衆を煽り、教会を迫害

*エペソでの騒動か？(使徒19章)

*テモテが留守の間、信頼できる指導者に十分警戒させるように!!



嘆願 とりなし テモテ II 4:16

私の最初の弁明*の際、だれも私を支持してくれず、みな私を見捨てててしまいました。どうか、その責任を彼らが負わせられることがありませんように。

*パウロの裁判の最初の弁明

- 主イエスが弟子たちの信仰のために祈られたように、とりなし祈るパウロ。
 - ➔ 使徒を見捨てた罪の重さが一方にある



宣言 パウロへの神の力 テモテ4:17

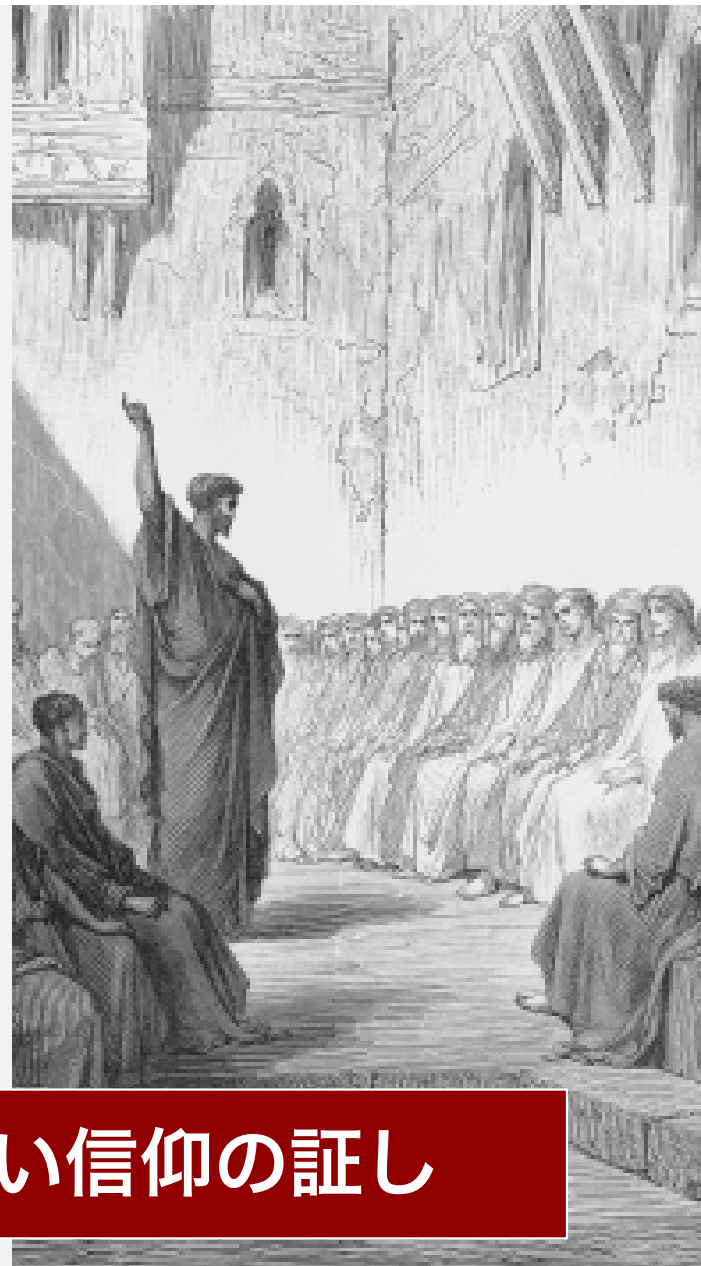
しかし、主は私とともに立ち、私に力を与えてくださいました。それは、私を通してみことばが余すところなく宣べ伝えられ、すべての国の人々がみことばを聞くようになるためでした。こうして私は獅子の口から救い出されたのです。

＊法廷の弁明すら福音宣教の機会としたパウロ。

➔一貫して生涯を福音宣教にささげた

＊誰も奪うことのできない、神の救いの確信

苦難の中での勝利の宣言こそ、最も強い信仰の証し



宣言 パウロの確信 テモテ II 4:18

主は私を、どんな悪しきわざからも救い出し、無事、天にある御国に入れてくださいます。主に栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

信仰者の希望は、終末的希望

すべては、栄光の主へ帰すべき





Ⅲ. 最後の挨拶

テモテ第二 4章19～22節

挨拶 同労者たち テモテ II 4:19~20

プリスカとアキラ*によろしく。また、オネシポロ*の家族によろしく。

エラスト*はコリントにとどまり、病気のトロフィモ*はミレトス*に残して来ました。

*コリント時代からの同労者の夫婦

*ローマで獄中のパウロを助けた(1:16)

*コリントの同労者。市の会計係(ロマ16:23)

*第三次伝道旅行でエルサレムにパウロと同行。
エペソ人。 *ミレトスはエペソ近くの港町



挨拶 ローマの信者たち テモテ II 4:21

何とかして冬になる前に来てください*。ユブロ、
プデス、リノス、クラウディア、そしてすべての
兄弟たち*が、あなたによろしくと言っています。

*強い命令形(アオリスト)…“来るように!!”

*ローマの教会の信者たち



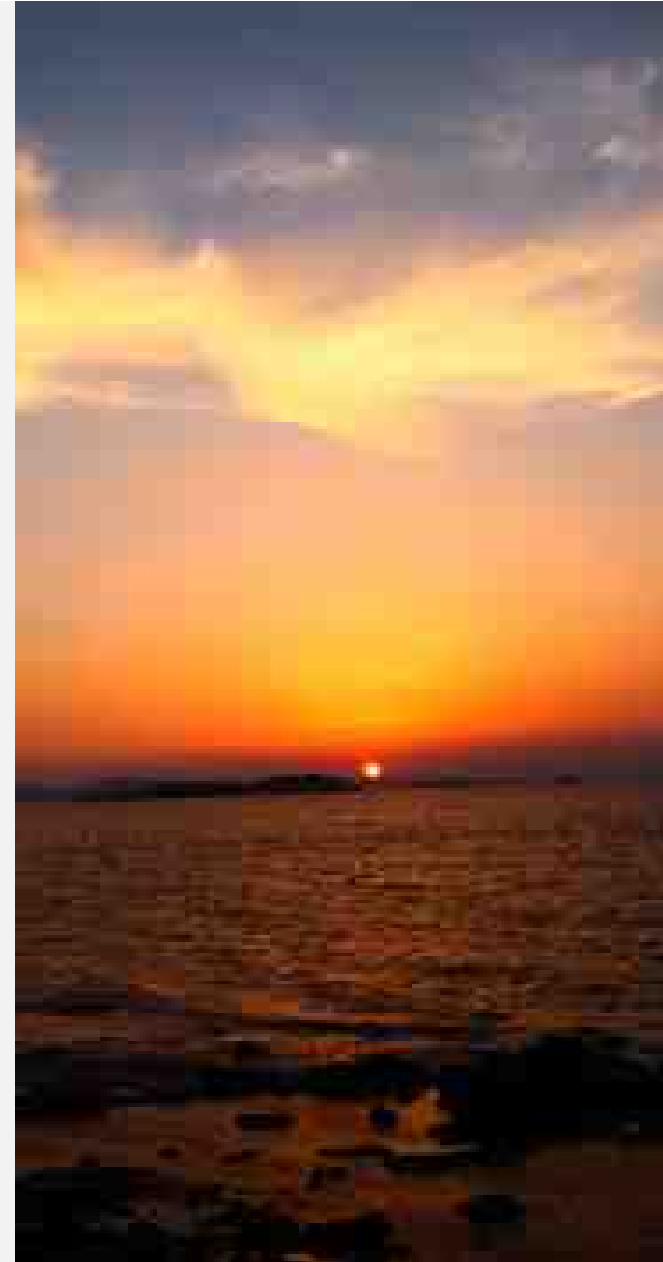
挨拶 主があなたの霊とともに テモテ II 4:22

主があなたの霊*とともにいてくださいますように。
恵みがあなたがたとともにありますように。

*ここだけの用例

■ たとえ肉体は滅んでも、霊は神と共にある。
主の恵みは、さらに豊かに与えられ続ける。

➔ 己の死を覚悟し、肉体の命よりも
はるかに深い領域での祝福を祈るパウロ。





Ⅲ. まとめと適用 主の命令に従って ただ主を信頼して歩もう

ローマ近郊

パウロの生涯の最後に思いを馳せる

- 主イエスが、パウロを通してなされた働きの後を見届けさせる。
重要な証人として、パウロはテモテ、マルコを呼びよせたのだろう。

…ルカとマルコは福音記者、テモテはパウロの手紙の書記

➡信頼できる複数の証人が必要。聖書の各書簡が相互の証人

- 使徒の働きに、パウロの死が記されていないということは、
テモテは、パウロの死に間に合わなかったのかもしれない…。

➡神の視点では、パウロの死の記述は不要だった

パウロが最後に伝えた二つのこと

①この時代に、今、なすべき使命は、**福音宣教・弟子の育成**

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。Ⅱテモ4:2」

②熱望し、待望すべきは、**主の再臨**

「私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。Ⅱテモ4:7～8」

すでに、と、いまだに、の間で求められていること。

【すでに、信じて救われた】

■福音を信じた瞬間、新生し、永遠の御国の民とされた。

「マラナタ(主よ来てください)」

→切迫した時代のただ中で、再臨の主イエスを切実に待望する

【いまだに、肉体をもって世を生かされている】

■救いも、信仰の成長も、当人の自発的な応答に基づくもの。

成長させてくさるのは神であり、糧となるのは命の御言葉。

→主に希望と信頼を置き、

忍耐して、ひたすら御言葉を解き明かしていく

パウロの具体的な警告を胸に刻もう

「というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。 II テモ4:3~4」

- 御言葉を聴くのではなく、自分の願望を聖書に盛り込んでいないか。自分中心に、心地よく響く言葉をだけを求めているか。

例) 岩波訳聖書の注解

- 聖書が求めているのは、自分の身に引き寄せることではない。
→ 主が求められる領域に、自分自身を引き上げること。

正しい適用とは？

- 神の御言葉を、自分に合わせようとしていないか？
- 聖書を適用するということは、
自分の生活、自分の状況に、聖書を適用することではない。

→ **私自身の人生を、聖書に適用させること**
- 不可能を可能にしてくださるのが、内に住まわれる聖霊だ。
打ち砕かれ、悔い改めた心を、神の御手に委ねよう。

★ 主の命令に従って ただ主を信頼して歩もう ★

- 主に命じられたら従うしかない、私の自信や自覚は関係ない。主が信者に求めるのは、福音を述べ伝え、聖書を解き明かし、弟子として育まれ、キリストの似姿となっていくこと。
- 自分でできるはずのないことを、助けてくださるのが**聖霊**だ。パウロが最後まで、繰り返し強く命じるのは、ただ**主への信頼**。
- **「わたしを信頼しなさい」** 有無を言わさぬ**主の命令**だと心得よう。信じるしか救いの道はない。信者に、信じ続ける以外の道はない。

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪を、ゆるしてください。

わたしは、主イエス・キリストが

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

この福音を宣べ伝えていくことは、主よ、あなたの命令です。

弟子として成長していくようにと、主が命じられました。

ただ御言葉に信頼します。御霊の助けによって押し出してください。

主イエスの再臨を待ち望み、歩みます。生涯を全うさせてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」